

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

● Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 167 2012年1月 発行

年金の「特例水準」の解消を許すな！

高齢者問題が今春山場に

重要
法案

消費税増税、医療窓口負担、FX等目白押し

昨秋の臨時国会は、重要法案を先送りしたまま、一川防衛相、山田消費担当大臣の
問責決議案を参院で可決して、12月9日に衆を閉じました。今後は正月を挟んで
一月に開会される通常国会の中で、「社会保障と税の一体改革」による消費税の
増税等の重要法案の議論が本格化される見通しとなっております。

現在野田民主党政権は、今月開会される
通常国会を前に「消費税増税」や「年金の
特例水準の解消」「次期主力戦闘機「FX」
を最新鋭戦闘機「F35」に決定する
など、民主党との精力的な調整を行なって
います。

野田首相が不転の決意で臨む「社会
保障と税の一体改革」は、消費税の増税が
柱になっています。この増税の財源を使って
「社会保障」を充実させると言っているの
です。

しかし、多くの国民は「消費税増税」の
前に、国会議員や官僚自らがまず血を流し
もつと無駄を省けと反対の声を上げて
います。

深刻な年金の減額問題

私たち年金生活者にとって年金の減額
問題は深刻な問題です。

この年金の減額問題とは、1999年以降
物価が下落した際、年金生活者の生活を
考慮し、当時の自民・公明政権が政治判断で
年金を減額せず据え置いたものです。これが
「特例水準」と呼ばれるものです。

その後、特例水準以下に物価が下落した
時は年金が減額されるが、特例水準分は
将来の物価上昇で相殺することとし、毎年
国会で民主党も含めて「全会一致」で法案を
成立させてきたものです。その差が現在
2.5%になっているのです。

現在、野田民主党政権は、その年金の
「特例水準」を3年で解消しようとして
いるのです。(毎年0.8~0.9%の減額)
この年金の減額で、年金生活者は月平均

約5000円位の減額を強いられること
になります。

退職者連合と共に闘う

この動きに対し、JR総連OB連絡会は、
日本高齢・退職者団体連合と共に、民主党の
国会議員に対して「要請行動」や「抗議電報」
を打ってきました。

私達OB会は、昨年一年、松崎元顧問や
角岸元委員長の死の悲しみを乗り越え、
「東日本大震災」にも負けず仲間達と共に
励まし合い、支え合って頑張ってきました。
そして「再起」から「飛躍」を誓って新年を
迎えました。またもや困難な高齢者の
年金や医療問題に直面することになり
ました。

全国のOB会員の皆さん

確かに日本経済は、まだまだリーマン
ショックから立ち直れず、不況が続いて
います。そのような状況の中で、年金の
減額や医療費の窓口負担増の問題など、
高齢者の生活を脅かす問題を解決して
いかなければなりません。

そのためには、重要法案が目白押しの
今度の通常国会が重要であり、大いに
注目しましょう。そして年金の「特例水準」
の解消には、断固反対しましょう。

今年一年、高齢者
には厳しい年と
なりそうですが、
皆さん健康に気を
つけながら怒りの
声を出していき
ましょう。



OB声の広場

水俣・白河展を見て

◇二〇一二年十一月十一日〜二十日まで、福島県
白河市でアウシユウイツツ平和祈念館主催に
よる水俣写真展が開催され、あわせて十三日
には、「水俣病から福島原発事故を考える」と
いう講演会がありました。



◇私はOBの仲間と十三日の午前中に、水俣写真展を見学しました。
会場に入ると、奇病に苦しむ少女のパネルが目飛び込み「何故こんな
幼い子が」と胸が締めつけられ、強い憤りを感じました。

◇日本窒素肥料(株)・水俣工場は一九〇八年に創業し、一九三三年にアセト
アルデヒド等の生産を始め、製造過程で発生する有機水銀を含む排水を
水俣湾に無処理のまま放流してきました。一九四二年一月から塩化ビニル
の製造も始め、メチル水銀も放流してきました。

◇この頃から水俣湾周辺の漁村に原因不明の病気が発生し始め、その
原因がメチル水銀であると究明されても、企業はその事実を認めず、行政も
因果関係は不明としてきました。

◇明治期にも国策により足尾銅毒事件という公害が起きましたが、チッソ
水俣事件もまた、高度経済成長時代へと進む国策の中で、原因が隠蔽され
続け、被害は拡大しました。この写真展では、政・官・財・学を総動員
した国策が、国民を犠牲にして推進されてきた事実関係を写真で紹介して
いました。

◇午後には「水俣病から福島原発事故を考える」をテーマにしたパネル
ディスカッションを聴きました。会場は、立ち見客が出るほど盛況で、
司会進行は女優の竹下景子さん、講演パネリストは映像作家・森達也さん、
漁師で水俣病患者・緒方正人さん、ルポライター・鎌田慧さんの四人が
出演していました。森さんは「人間は群れ「集団」で行動する動物」で、
一人が行動すると他の人も同調する場面が多いと言っています。緒方さんは
自分の経験を中心に話し、「チッソとは何だったのか」と考えさせられた
という。チッソは水俣病を起した原点でありながら作る製品「塩化ビニ
ール」は、家電製品から漁船まであらゆる所に使われ、日常生活の中に
溶け込んでいるのです。

◇私は今回の水俣展を観て、田中正造が言った「真の文明は山を荒らすず、
川を荒らすず、村を破らず、人を殺さざるべし」という言葉を思い浮かべた。
人は自然の中に生かされている。その自然を壊して得た豊かさとは、
物質的な豊かさであって、心の豊かさではない。国策によってつくり
出された公害と、それを「容認」している社会に警鐘を鳴らし、安心して
暮らせる社会、未来の子供達に引き継げる日本でなければならないと、
強く感じました。

大宮地本・宇都宮支部OB会(K・O)

新春クイズ

野田政権は「社会保障と税の一体改革」と称して、自公政権でも手を付けなかった年金の切り下げ・医療介護の負担増・消費税の段階的直上げなど、私たち年金生活者をターゲットにした増税路線を強行しようとしています。今こそ、私たち高齢者の怒りの声を!

【問題】

JR東労組OB会は、3年間で年金給付額の2.5%を段階的に減額しようとしている政府の「年金の〇〇〇〇の解消」に反対しています。

- の中に適当な文字を入れて下さい。
- ★ ヒントは、[OB会ニュース]をよく読んで、答えを見つけて下さい。
- ★ ハガキに答えと住所・氏名・OB会員番号を書いて、御応募下さい。

<宛て先> ①151-8512
東京都渋谷区代々木2-2-6
JR新宿ビル13F JR東労組OB会

<賞品> 正解の方の中から抽選で30名の皆さんに下記の賞品が当たります。

- 1等 2名 1万円のびゅう商品券
- 2等 3名 5千円のびゅう商品券
- 3等 10名 3千円のびゅう商品券
- ※ 特別賞 15名 1000円の図書券

<応募締切> 2012年2月25日(洋)有効
<当選発表> 次号 No.168号 (2月号)

この「エルダー」と本部役員との意見交換会も今年で3回目になりました。今年もエルダー問題の本社交渉も行なわれたこともあって、職場の現状を訴えるだけでなく、どうしたら解決できるのかの方策を考える場へと発展した「意見交換会」になりました。



「さよなら原発1000万人署名」街頭で市民に呼び掛ける!

東京地本OB会 事務局次長 森下 彰司

東京地本OB会は、11月29日13時からJR王子駅周辺で「さよなら原発1000万人署名行動」を17名の会員の参加で市民に呼び掛けました。

この取り組みは、9月19日に開催された「さよなら原発5万人集会」に東京地本OB会の会員75名が参加し、「脱原発」の声を行動にあらわし、さらにその輪を広げるために、この日の署名行動を取り組んだのです。



「原発に頼らない社会をつくらう!」「地震大国日本に原発はいらない」など、マイクを通して道ゆく市民に訴えました。また視覚に訴えるために横断幕も掲げました。

応えてくれる市民の中には「福島から避難している」「親が被爆者なんです」と声をかけてくれる方や、外国人で「安全なら東京に原発をつくれ」と運動している」と署名に協力してくれた人もいます。

エルダー職場の現状を訴える!

エルダーと本部役員との意見交換会/報告

中央本部も取り組み強化を約束

12月7日、JR東労組・中会議室において「エルダー」と本部役員との意見交換会が開催されました。中央本部からは石井副委員長を始め5名の役員と、各地本の責任者・エルダー代表の35名が参加しました。本部OB会からも9名が参加し、12地本の14名から発言があり、活発な美のある意見交換会になりました。

副委員長/エルダーの今後について語る

会議は君塚OB担当の司会で始まり、石井副委員長から東日本大震災支援の取り組み、JR浦和電車区事件の現状、最近の労使関係等の報告を受けました。またエルダー問題について「エルダーの声が本部大会で発言できるよう地本を指導する。構内外注化拡大で現役出向者が大勢出るが、どういった組織をつくれればいいのか検討して行く」と問題提起がありました。

エルダーと本部役員で活発な意見交換が...



その後、本部より、去る10月24日に行った「申20号」の交渉説明があった後、14名のエルダーと地本責任者から意見や要請が出され、活発な質疑となりました。

「主な意見は、左記の通りです」

- ◇ 出向先の寝室が二人部屋、休憩所が狭いなど、設備・職場環境が悪すぎる。
- ◇ 同じ仕事なのに、徹夜作業(構内)の拘束時間が現役より一時間長いのはおかしい。
- ◇ エルダーを希望しても、身体に障害を持ってると再雇用されないのは、人権差別だ。
- ◇ 地方は無人数が多いので、受け皿がなく退職に追い込まれる人が多い。
- ◇ 地本に「エルダー協議会」を作って意見を集約し、地本と話し合っている。

「中央本部のまとめ」

本部からは、「個別の案件は、地方で協議して改善してほしい。今後、出向先の労働組合とも意思統一して、問題解決のために一緒に取り組みができるようにしていきたい。」本部大会には、地方の代議員様で参加し、発言してほしい。本部もさらに努力をする」と発言があり、参加者全員の拍手で確認しました。

発展した「意見交換会」を組織強化に

今後、エルダー協議会の未結成の地本は結成を急ぎ、エルダー組員自らの待遇改善を図りつつ、「OB会組織の強化」に繋げていきます。

分會結成の成果を確認!

JR、バス関東本部OB連絡会第2回定期総会/報告

バス関東本部OB連絡会は、12月8日、本部会議室において第2回定期総会を開催しました。総会には各分會のOB代表と本部OB会の大熊会長・伊藤事務局長も顔を見せ、総勢21名が参加しました。

昨年の結成総会から一年が経ち、その間の成果と課題が明確になりました。

成果としては、東京・宇都宮・西那須野の各分會にOB会を立ち上げたことです。立ち上げには現役の分會役員と連携を深めながら、準備を進めてきました。

OB会員は、「退職後の会社や東労組がどうなっているのか」「苦勞している後輩たちは元気か?」などと気遣い、様々な思いを出し合って、分會OB会結成までは比較的スムーズに進みました。

しかし、OB連絡会の課題は「支部・地本と連携し、会費を払ってOB会に加入する」となると、まだまだ消極的な人達が多いのも現実です。

また以前から「支部・地本OB会に参加しても鉄道の話ばかりで参加し辛い」という声も蔓延し、その克服が課題でした。そこでバス関東本部OB連絡会を立ち上げ、OB会を結成させ、支部・地本OB会に加盟して積極的に運動に参加することが、OB連絡会起ち上げの目的でした。



『我らの声』原稿募集

締切り間近!

● 今回の『我らの声』の原稿募集は、例年より1ヶ月早い1月31日が原稿締め切り日ですので、ご注意ください。

《募集原稿》

- テーマは自由です。
- 1600字以内にまとめ、原稿に相応しい写真を添付して送ってください。

<原稿の送付先>

● 各地本のOB担当者又はOB会役員まで。